

くまにち 論壇



国連事務次長・
軍縮担当上級代表

中満 泉

なかみつ・いずみ 89年国連入りし、難民、人道支援や安全保障に従事。著書「危機の現場に立つ」。ニューヨーク市在住。58歳。

この原稿が掲載される日は、第49回衆議院選挙の投票日。私は既に、大学のある街から4時間半かけてバスでやってきた長女と、ニューヨーク総領事館で投票を済ませた。長女は初めての投票。気候危機、ジェンダー平等や格差解消など、各党の政策をいろいろとネットで調べたらしい。便利な世の中になったものだ。

インターナショナルスクールで徹底的にクリティカルシンキング（批判的思考法）を叩き込まれてきた彼女も、現在高校最終学年の次女も、データを見ながらともかく何事も「なぜ？」「これは本当に正しいのか？」「どうすればより良い結果を生み出すか？」と問う。18歳になれば家を出て、大学を卒業したら経済的にも親に頼らないのが当然という環境で育ったから、選挙は自分の利益を守ってくれる政府をつくるための行動だという。日本の特に若者の投票率の低さは、彼女たちには衝撃的だ。社会や国家は市民との契約によって成立するという「社会契約」の考え方はヨーロッパで生まれたものだから、私たち日本人にはどこかわかりにくいのかも知れない。若者の意識調査の国際比較でも、日本では社会を変えられると考えたり、自分の将来に明るい希望を持つ若者が諸外

より良い未来へ「契約」の日

国に比べて低いことがうかがえる。気がつけば、日本はOECD加盟国33カ国で9番目に高い相対的貧困率にあり、いわゆるひとり親世帯での貧困率は48・3%にもなった。

「社会契約」のあり方を見直して、政府と市民の間の信頼を再構築すべきという問題意識は、国連からも強力に発信している。昨年の国連創設75周年の総会決議の要請を受け、今年9月にグテレス事務総長は「私たちの共通の課題」と題するビジョンを発表した。世界は今、第2次大戦以来最大の試練の時を迎えており、「人類はブレイクダウン（崩壊）かブレイクスルー（突破）か」という厳しい選択を迫られている」と異例なほど強い口調で警告を発した。

気候危機や、生物多様性の崩壊。過去の米ソ冷戦より一層複雑な、三つ巴の大国同士の緊張と軍拡傾向。世界各地での暴力の連鎖。宇宙やサイバー空間といった新たな空間での行動や、生活を根本的に変化させるであろう人工知能（AI）などの技術の使用に関わる規範は未発達だ。そして、多くの不平等と格差が放置されて社会の結束が弱体化し、国内でも国際社会でも私たち全員に悪影響を与える脆弱性が、さまざまなくところに見られるようになった。

残念ながらどれも特効薬や即効策はない。短期的な利益や利権でなく、長期的なビジョンと戦略を持ちつつ、複雑なジグソーパズルを組み立てていかなければならない。「私たちの共通の課題」はそのために70の勧告を行った。どれもがグローバルな課題であり、グローバルな対話と協力なしでは、解決しえない。

2015年にSDGsや気候変動に関するパリ協定合意を可能にした多国間協力が急速に後退し、一國主義が台頭した背景には、各国で格差と不平等が拡大し、グローバル化の恩恵から取り残されたと感じる人々の大きな怒りと失望があった。

だからこそ「突破」への最初の一步は、私たち一人一人が自らの社会や国、政府をどのようにしたいか考え、政治家たちと「契約」を交わすことにある。契約を誠実に実行してもらい、信頼関係を取り戻さなければならぬ。そんな信頼を世界各地で積み上げていけば、それこそが私たちの直面する危機を突破するグローバルな協力の源泉になるだろう。

日本社会は変革するのが難しいという人が多いが、長い歴史を見れば必ずしもそうではない。私たちの祖先は歴史の転換点には、大胆に新しい社会制度を作ってきた。日本には「ご先祖様に恥じないように」という言葉があるが、それに加えて「未来の世代に恥じないように」と言うべきではないか。今の若者世代だけでなく、これから生まれてくる世代の未来を考えて。

今日からイギリス・グラスゴーで気候変動枠組み条約第26回締約国会議（COP26）が始まる。国連職員としてではなく、2人の娘の母親として、彼女たちとその子供たちの住む世界に、思いをはせている。

衆院選